

一、久留米領饑饉の慘狀
 筑後州久留米領、有間中務大輔殿城下一向宗專勝寺より、七月十五日大坂商人龜屋理兵衛迄差越候紙面、當地堤町商人りうご屋權兵衛兄弟に付、右來狀を爲見に越候由。仍之左方に寫之。

一、當春は緩々得御意、其上御情にて早々罷下り大悅、家内何も忝奉存候。一入貴様御恩いかばかり難志奉存候。早々以書中御禮旁可申進候處に、大坂よりの船中大病引請、罷下り候てもあいだ三十日許床に付、只今漸家内自由仕候。右の仕合故何事も不任心底候。物しらす同前、心外の仕合、朝夕共にそのみ佛祖様御見覽噂仕候。家内皆々宜申上度と申候。

一、當方札遣に候處に、四月初より右の札一日々々とよわり、銀一匁札に貳拾貳文迄に落し申候。銀錢遣候者、國中に七人迷惑仕候。公儀札所も銀に替候へば、札壹匁に銀貳分宛に引替申候。右の仕合故、願物等仕候寺にも銀子引替成不申、せめて鳥目自由に候へば、他國の米も買に遣度趣にも仕度候得共、國境に番人・役人廻り相改候。他國にて

は札遣候ても取不申、難題の至に候。其上五月初より、西國中不殘いづくと申内に、別て當方久留米領の内大變・大災惡事に成申候。いかさま遠國にても、御聞及被成候はんとあらましに書進候。

一、正月より七月今日迄、毎日々々大雨にて麥かれくさり、壹合も殘不申候。時節到來一切の木やまひ木に成、十本に二本と生上り不申候。其木のなり物給候もの、皆々血を吐き病死仕候。犬・猫・鼠迄も煩候て人にくひつき、くはれ候者も皆々二三十日ぶりにて死申候。然處に後五月七日より十三日迄、前代未聞の大水出、山より溢出で、貳十一萬石の内七萬石餘田地石河原と成申候。正月以前より大雨降續き土地の煩と成、田地一つぶも不殘蟲入、めきく〜と後五月二十日頃より七月八日九日迄にくさり候。貳十萬石の國中七月朔日迄、役所の帳面十七萬六千石迄、田地一粒も無之様子にて有之候。肥前の殿に御合力米申參候。御家老中知行取業も知行なしに成り、扶持方米に成申候。家中の扶持方米の分、肥前より御合力に御座候。當方殿様も江戸表に被成御座右の仕合故、江戸御勤も難被成、町人・百姓

少々宜者の方に役人入込、やさがしにて金銀米錢おし取に御取上被成候。然處在々町人殊の外飢人多く御座候に付、御助米奉願候得共、殿様さへ右の仕合に在之候間相叶不申候。金銀錢迄も江戸御入用、其上京・大坂にて御借用の仕合に候。札御拜借被仰付候得共、右のよわり札に候故、三斗三升入一俵の米、右よわり札にて只今百九拾七匁仕候。夫も國中に賣買無之候。他國米の分は札にて賣不申故、皆々おし入押取亂國に罷成、只多きものは國中毎日々々飢人・死人、其數しれず限りも無之候。寺にも取置申力無之、只野邊に捨申候。當寺も下女二人・下人一人暇遣候。番僧壹人筑前の國頭の大寺へ、六月二日に先々當分預け置申候。夫共來春迄家内存命難計候間、もつたいたなくも四幅の御縁起様も、肥前の御領の銀子かし申方へ願申候。扱々なさけなき大惡事に御座候。尤三日前公儀へ寺社方より願を出し、せめて豆飯成共と存、御既の大豆を一ヶ寺に貳拾俵宛御拜借願ひ書付出候。未被仰付不申候。諸家不殘賣戸切ふさぎ居申候。只盗人多く御座候故、寺々も門を閉居申候。とやかくと仕、來年麥作出來迄存命取續候はゞ、其上知行

も可有之と存候。急便早々委細は跡より追て可申進候。もはや此書狀調申力もなき様子にて、萬事御推量可被下候。末代の咄と存候。筆紙に難書記候。亂國に成只々譯もなき大惡事至極に御座候。右の仕合故、貴様大切なる御恩を著ながら、恩しらすに成申故拙僧一生の不届、海山と心に存罷在候得共、此惡節に逢申候間、御ゆるし可被下候。命も候はゞ、いか様御力を以て御恩を報可申候。何卒渴命に及不申様にと心懸申迄に御座候。以上。

七月十五日 筑後專勝寺

一、黒青は風の異名

昨日筑後久留米城下より、京本國寺へ參候出家、當地寺方へ爲使僧罷越致參會候處、江戸表より申來候黒青の事尋候へば、此儀一圓難心得候。關東又は北國にて、提婆風と申同事にて候。九州にては風の異名に黒青と申候。此風に當り候牛馬多く斃、其上黒青に當り死申候へば、臭氣以の外に有之候。牛馬皮を取申に、穢多共此臭氣にて煩死申者多く候。更に獸にては無之、不審成事を御當地に沙汰承候由申候。